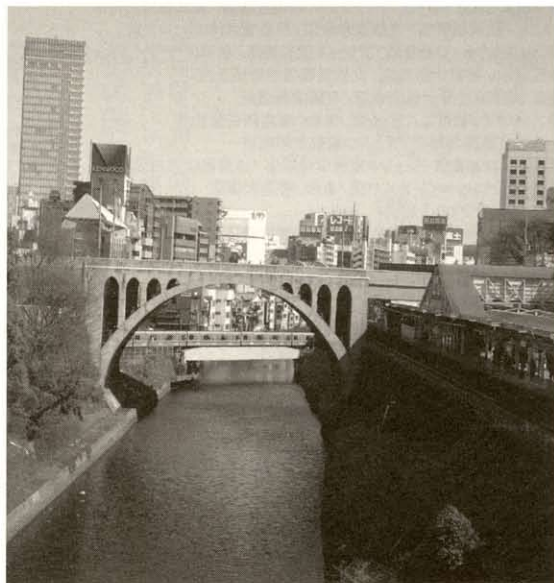


まちの文化遺産、 文京の近代建築を歩く。

江戸からの歴史をひもとき、東京の都市の特質を理解しようと実施された「江戸東京フォーラム」のシリーズフォーラム。第2回目は、文京ふるさと歴史館の企画展と連携して、湯島聖堂、聖橋などの近代建築が多く残る湯島・本郷界隈を歩き、シンポジウムが行なわれた。



上・ニコライ堂と湯島聖堂の両聖堂を結ぶ橋として「聖橋」と名付けられた。下・湯島聖堂。孔子を祀る大成殿。屋根は入母屋造りで、両端に青銅製の鬼狛頭・鬼龍子を置いた



江 戸東京フォーラム主催の「東京の地域学を掘り起こす」シリーズ第2回目、「地域資料としての『近代建築』」に参加するため、集合場所の湯島聖堂に向かう。

暖かい日差しに、春が感じられるようになった三月十七日、J R御茶ノ水駅聖橋口に着いたのは、集合時間の午後一時の五分前。

改札口の名前にもなっている聖橋は、大正十二年に起こった関東大震災後の復興事業の一環として、昭和二年、神田川に架けられた。意匠設計は山田守。堀口捨己らとともに、日本初の建築運動とされる「分離派建築会」を立ち上げた、主要メンバーの一人である。復興橋梁は、耐震、防災に優れているだけでなく、都市の美観形成を考えたデザインに

する必要があったため、親柱などの装飾的要素を排した、簡素なデザインの橋が多い。そのなかでも聖橋は、格別に美しい。放物線アーチの橋脚は神田川に映り、モダン都市東京を象徴する橋だ。

その姿を見たいのだが、残念ながらこちら

は橋の上、まずは湯島聖堂に急ごう。湯島聖堂は元禄三年、上野にあった孔子廟を、徳川五代将軍綱吉が、儒学の振興を図るために湯島に移転したことにはじまる。それから約百年後の寛政九年、幕府直轄学問所として世に名高い「昌平坂学問所」が開設された。以後、榎本武揚、高杉晋作、渡辺崋山など、多くの人材を輩出した。近代教育発祥地の歴史について、まだまだ知りたいところだが、今日は「近代建築」めぐりである。

現在の建物は昭和十年、伊東忠太設計で建てられた。関東大震災で、入徳門と水屋を残しすべての建造物が焼失したため、聖橋と同じく、防災性の高い鉄筋コンクリート構造を採用し、元の姿に再建した。伊東忠太の代表作に、前年の昭和九年に建てられた築地本願寺がある。こちらは装飾に凝った伊東らしく、建物のいたるところに象、猿、鳥などの動物の彫刻が配されているのに対し、湯島聖堂のその数は少なく、勉学の場にふさわしい、落ち着いた印象を与える。当初の再建計画では、装飾がかなり描かれていたそうだ。

午後二時から始まる、江戸東京フォーラムと文京ふるさと歴史館の学芸員によるシンポジウムまでには、まだ時間がある。聖橋をお茶の水橋から眺めたその足で、文京区立元町公園に向かう。

震災復興事業の一つとして、小学校と、避難場所にもなる公園をセットにして造られた五十二件の復興小学校のうち、両方が現存するのは、ここだけになってしまった。昭和五年開園。保存か取り壊しかで揺れているこの公園は、「日本の歴史公園百選」に選ばれている。カスケード（水階段）にアールデコのデザインが取り入れられ、ここでもモダン都市東京を発見できる。

文京ふるさと歴史館の 展示室をきつかけに、町へ出よう。

シンポジウムは、地域雑誌「谷中・根津・千駄木」編集人の森まゆみさんを司会に、平成三年開館の文京ふるさと歴史館が、なぜ近代建築の展示会を取り上げるようになったのか、過去の展示会の事例をあげながら、学芸

員の川口明代さん、専門員の北田建二さんによる報告からはじまった。

文京区の震災を免れた地域には、文教地区、山の手ということもあり、近代建築が多く残っていた。ところがバブル経済を挟んで、次々に壊されていく。まちの歴史のなかで、由々しき事態である。ここで二人は、「建物保存」と「建築展」のジレンマに陥ることになる。建築展は何を展示するのか？

「文京・まち再発見2——近代建築 街角の造形デザイン」の展示物を見てみると、解体された三井高陽邸のステンドグラス、解体された曙ハウスの看板など、保存にいたらなかった建物のカケラや、現存する建物の図面や写真類である。つまり、現物そのものを見せる展示が一番難しいのが、建築展ということだ。

「文京ふるさと歴史館の展示室は、建築や町への興味の導入部です。町全体が博物館であって、実際の建物を見て感動してほしい」と川口さんは語った。

江戸東京の歴史や記憶の継承は、歴史館とまちとでは方法が違う。相互がうまく連動することが、地域遺産を考えるうえで重要だ。外はまだ明るい。写真展示されていた今井兼次図案制作の、本郷にある、東洋学園大学のフェニックス・モザイクを見に行こう。●

江戸東京フォーラム 「東京の地域学を掘り起こす」

第三回以降は未定。
問い合わせ 江戸東京フォーラム事務局
電話03-648415000-1
<http://www.jusoken.or.jp>



上・2月10日から3月18日まで開催された「文京・まち再発見2——近代建築 街角の造形デザイン」の展示風景より。壁の展示は、今井兼次のフェニックス・モザイクのデザイン画。下・解体された、大正期の木造アパート、曙ハウスの看板。
■文京ふるさと歴史館 / 文京区本郷4-9-29
TEL03-3818-7221